

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> スローガン 「一人一人の文武両立」 「さわやか挨拶日本一 多治高生」 </div>	
2 評価する領域・分野	◇ 教務	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導においては教員が熱心であるという生徒からの評価が昨年度より10%増加して91%となっている。 ・先生方の専門知識が豊富で授業内容に信頼がおけるという評価が6%増加して85%、また説明がわかりやすいという評価も4%増加して76%となっている。生徒が学習指導面で教員を信頼していることが伺える。 ・一人一人の能力に応じた指導をしているかについてはプラス評価が6%増加して62%となったが、一方で生徒の希望に応じた選択授業、少人数授業の実施についてはマイナス評価が9%増加して37%となっている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇職員の共通理解のもと、生徒一人一人に確かな学力をつけるために、授業力・学習指導力のさらなる向上と、生徒一人一人に存在感・達成感をもたせることができる授業内容及び授業編制の研究と充実を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・カリキュラム委員会を中心に「存在感・達成感をもたせる授業」をテーマとした校内研修を、学年会や教科会との連携のもと、企画委員会、職員会で周知徹底をはかり実施していく。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 公開授業・研究授業及び教科研究会の実施 (2) 少人数授業・習熟度授業の実施 (3) 生徒の進路希望を考慮したカリキュラム作成 (4) 教科シラバス、学年シラバスの改善と作成	(1) 生徒による授業評価および授業に関するアンケート (2) 各教科の模擬試験の目標設定値と達成	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・前期2回に渡って公開授業週間を実施。期間内に研究授業・教科研究会を実施 ・自然科学コースを中心として習熟度授業を実施 ・全教科において前期終了時に授業評価の実施 	①各教科内で活発に授業参観が実施され、研究授業後の教科研究会が有意義なものとして実施されたのか。 ②習熟度授業が効果的に実施されているのか ③授業評価結果が授業改善へと生かされているのか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D

11 成果 ・ 課題	<p>○「存在感・達成感をもたせる授業」をテーマに研修計画を立て、公開授業・研究授業を実施し、授業改善に向けての研究に一定の成果があった。</p> <p>●上記において教科により内容の密度に偏りがあった。教科研究会のあり方についての研究が今後の課題である。</p> <p>○「新学習指導要領」の作成に関連し、「多治見高校をよりよくするために」をテーマに研修会を実施した。(11月) K J法を用い、「多治見高校の強み」「多治見高校の弱み」から、本校の課題を挙げた。これらの課題の中から、重要なものを選び、具体的な方策を探る予定としている。</p> <p>○習熟度授業を昨年以上に実施し、成績の向上がみられる等の効果がみられた。授業展開・授業形態等の授業改善の研究により、更に成果を上げたい。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
---------------------	---	------------------------------

12 来年度に向けての改善方策案

今年度掲げた公開授業・研究授業及び教科研究会の実施については、教科研究会の持ち方に課題が残り、この点を教育研修課に協力を依頼するなどの方策も考え来年度の研究課題としたい。また、授業評価についてもよりよい形態を研究する必要がある。使用しづらいと声が上がっていた全教科が含まれた冊子型の従来のシラバスについては形態を見直し、各教科で形態・内容を研究し、作成する。

2 評価する領域・分野	◇ 進路支援	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・「適切な進路情報を示し可能性を引き出そうとしているか」の項目に対して生徒の74%、保護者の69%がプラス評価をしている。生徒については昨年度の47%からの大幅な上昇であり、取り組みの成果であると考えられる。しかし、さらなる情報提供体制の強化が望まれる。</p> <p>・「生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われているか」の項目については生徒、保護者ともほぼ7割がプラスの評価をしており、取り組みの成果であると考えられるが、全員からのプラス評価を目指したい。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇一人一人の生徒が十分な基礎学力を身につけ、主体的に進路を選択・決定できるよう支援する。ほとんどの生徒が志望している国公立大学への合格率を上げる。</p> <p>◇保護者との協力関係をより一層強め、効果的な進路支援を実現する。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・各学年と進路支援部との連携を強め、情報交換を日常的に行うことにより、迅速な情報提供と進路支援の充実を図る。</p> <p>・学年部を核とし、全職員による進路支援体制を確立する。</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 授業改善による基礎学力の充実</p> <p>(2) 土曜全員補習、夏期特別授業などの充実</p> <p>(3) 進路説明会・進路講話などの充実</p> <p>(4) 保護者大学見学会の充実</p>	<p>(1) 模擬試験のデータによる生徒の学力の分析</p> <p>(2) 各種進路行事後のアンケート実施</p> <p>(3) 入試結果から各生徒の目標達成度や学力伸長度を分析</p>	

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会（生徒・保護者対象）の計画な実施 ・保護者大学見学会の計画と実施 ・模擬試験の効果的な活用（事前・事後） ・総合的な学習の時間の活用（進路研究） 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の学力達成度・充実度 ②保護者の満足度 ③第一志望合格率 	<p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
11 成果 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な時期に、適切な進路情報を提供し、担任・学年部が中心となって適切な進路支援を実現できている。また、進路情報を精選し、効果的な提示の仕方を検討している。 ○育友会と連携して実施している、「保護者大学見学会」、「進路説明会」の開催については参加者が増え、一定の効果を現していると言える。 ●自宅学習が、質・量ともに不十分な生徒が多いという問題の改善にはなかなか至っていない。 	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年生学年部とのより一層の連携強化（担任・生徒への支援体制の整備） ・土曜補習（サタスタ）、希望者補習などのより効果的な運用（現状を把握し、原点に立ち返って、より生徒のためになる補習の実現） ・模擬試験実施目的の明確化とその効果的な活用法についての研究 ・保護者（育友会）との連携強化を一層図り、生徒の進路・進学意識の向上を目指す（育友会総会、保護者懇談会、進路説明会、大学見学会、PTフォーラムなどを活用し保護者への進路情報を提供）。 		

2 評価する領域・分野	◇ 生活支援	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ、マナー指導は特に保護者には意図、趣旨は理解されているようだが、実の身だしなみに表れてない。 ・交通安全、痴漢防止指導の評価は高い。 ・一人一人にあった指導力が発揮されているかという点でやや弱い。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 身だしなみ指導の徹底	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の意識統一 ・生活支援部のリーダーシップ ・学年の生活支援部との連携 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 校門指導の回数増加。 (2) 月に一度「身だしなみ確認週間」を設定（生徒自ら身だしなみをチェック、また教師が「声かけ」しやすい態勢づくり） 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 本校職員の評価（アンケート等）。 (2) 外部会議や、育友会会議などで意見・評価の吸収。 	

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、一週間の校門・登校指導での生徒への声かけ指導 ・「身だしなみ確認週間」での”身だしなみチェックシート”を利用して生徒自らの身だしなみチェック ・あらゆる場での声かけ指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①その場で生徒の服装を正せるか。教員が声かけをできるか。 ②朝SHRで”身だしなみ”の指導ができるか。その状況を部会で各学年の様子を把握して、評価する。 ③学年会・生活支援部会・職員会等会議、あるいは父兄外部評価アンケートでの評価等を参考にしながら評価する。 	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p>

11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員が「身だしなみ」について課題意識をもち、登校・校門指導でより多く声かけをし、指導できる体制ができあがってきた。 ○生徒が少しずつではあるが、「身だしなみ」の大切さを理解し始めている。 ●職員室等への入室時、授業開始時等、まだまだ指導しなければいけない場で指導ができていない機会が多くある。 ●教員間の中でも「身だしなみ」指導に関して様々な点で温度差があり、全職員同一歩調での指導の在り方を模索したい。また指導に従わない生徒について、何かしらのペナルティについても課題として検討していきたい。 	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
----------	--	------------------------------

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年初めて身だしなみを正すことを重点的に考え「身だしなみ確認週間」を設定したが、やや後期になり、マンネリ気味となり、職員の意識も低下していったように思う。集会等で講師を招いて身だしなみ指導をしたりもしてきたが、指導に従ってない生徒も何人かいる。来年度さらに指導を徹底させるために、生徒の内面の意識の変革と、ペナルティ等からの両面で考えていきたい。また本年は交通事故もあり、安全教育、不審者対策、遅刻指導、挨拶指導等来年度はバランスよく指導していきたい。

2 評価する領域・分野	◇ 特別活動	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学校行事へのプラス評価が増加した反面、生徒会活動へのプラス評価が減少した。 ・昨年度同様、部活動へのプラス評価は、保護者・生徒とも高い。 ・ボランティア活動についてのプラス評価は相変わらず低い。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 生徒が主体的に判断・行動し、積極的に自己を生かすとともに、他人のことも考えた上で自己実現ができるよう支援する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会組織を見直し、より活動しやすいものにする。 ・生徒会執行部、部活動、ボランティアを三本柱とした体制。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒自らの考えで進める活動 (2) 部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会行事での生徒の活躍。 (2) 部活動参加の継続と、内容の充実。 	

(3) ホームルーム活動の活性化 (4) ボランティア活動への積極的参加	(3) 各種委員会の、ホームルームでの活躍。 (4) ボランティア参加者の増加と質の向上。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 執行部を中心とした生徒同士の連携の強化と、リーダーの活躍 ・ 活動時間の確保と、計画的で充実したな練習 ・ LHR 委員をはじめとする、各種委員会が中心となったの LHR の運営 ・ ボランティア参加への呼びかけの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒同士の意見交換、生徒からの発案が見られるか。 ② 部活動への参加と実績 ③ 生徒主体の LHR を行う事ができたか。 ④ 積極的な参加者数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ B C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 執行部内部、及び執行部と委員会・部長会の間では生徒間での連携がスムーズに取れ、活発に活動することができた。 ○ 複数の部活動が全国大会や東海大会に出場したり、硬式野球部の県大会準決勝出場など、十分な成果が上がっている。さらに、硬式野球の準々決勝と準決勝では全校応援に近い形で応援ができ、学校全体の志気も高まった。 ● 委員会開催のための準備と、開催するための時間が取れず、委員会が中心となつての LHR の運営は難しい。 ● 外部からのボランティアの要請は非常に多いが、それに対応できる組織が整っておらず、一般生徒への参加呼びかけが十分に行えなかったため、どうしても執行部や MS リーダーズ、委員会に頼ってしまった。ただ、参加した生徒は自らの意志で、活発で積極的な活動ができた。 	<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会組織を見直し、生徒会執行部を中心とし各種委員会との連携が強くなるような組織図となった。これを生かし、生徒自身の手で行事を運営していけるような活動方法を工夫する。 ・ 生徒会の活動、中でも執行部の取り組みやボランティア活動があまり全体に理解されていないため、今以上にホームページを充実させ、多くの生徒や保護者に閲覧してもらえるような工夫をする。 ・ ボランティアへの参加呼びかけを工夫することと、ボランティア活動の参加記録をきちんと残すようにしたい。 		

2 評価する領域・分野	◇ 保健厚生
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全、衛生面については、昨年度のインフルエンザ流行のこともあり理解が徹底されている。 ・ 災害対応については、最近の豪雨傾向もあり理解はされているが、地震などの対策マニュアルについての認識はやや不十分である。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇安全で快適な学習環境の整備、美化及び清掃活動の充実を図る。
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・ 全職員、全校生徒による清掃美化の徹底と大掃除における安全点検の実施。

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 全校清掃の徹底 (2) 生徒委員会による環境点検の実施	(1) 本校職員による評価（アンケート） (2) 外部訪問者による意見吸収	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・清掃道具の充実	①清掃道具の補充と交換	Ⓐ B C D
・大掃除における安全点検の徹底	②安全点検報告	A Ⓑ C D
・生徒委員会による点検実施	③委員会による巡回	A Ⓑ C D
・救急救命講習の実施	④消防署職員の講評	A Ⓑ C D
11 成果・課題	総合評価	
○ 清掃道具補充などについては、不足がないよう事前のチェックを徹底していたので、困ったという報告は一度も聞かれなかった。 ● 清掃区域の監督場所がやはり広範囲（2～3箇所）であるため、安全点検や清掃指導の徹底という点ではどうしても物足りなさを感じた。 ● 生徒委員会による環境・清掃点検は十分機能していなかったように考えられるので、今後は生徒の意見を聞きながら一番良いと思われる方法で指導していきたい。 ○ 救命講習会は不慮の事故が発生したときに敏速で的確に応急処置ができるように実施したが、AED使用も含め、目的は十分達成されたように考えられる。	A Ⓑ C D	
12 来年度に向けての改善方策案 「学習は環境から」という点で、職員による清掃の徹底だけではなく、生徒自身、自らの手により環境を保持し、美化意識やマナーを高めるようさらに喚起したい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成23年2月22日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p><教務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観の折には、分かりやすい板書が工夫されていたり、また、若い教員が多く生徒は親近感を持っているように感じた。 ・先生によって黒板の文字が小さい人もいるという話を聞いたことがあるので、改善されたい。 ・机列について、教師を中心に囲むなど従来の形にとられない柔軟で特色ある授業を望みたい。 ・自然科学コースでクラス自体を2つに分けていることや、他のクラスでも少人数授業を実施していることは、生徒にとってありがたいと思うし、保護者にとっても大変魅力を感じる。 ・この地区で一番面倒見の良い学校であると聞いているので、先生方の苦勞を感じる。 <p><進路支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級学校への進学を希望する生徒がほぼ100%ということだが、生徒に進学意識や意欲を起こさせる方を更に工夫し、より一層の目的意識を持たせて進学させてほしい。 <p><生活支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスから降りて友だちと横一列になって歩く生徒がいるが、大変危険なので学校でも注意してほしい。
--

- ・「さわやか挨拶日本一多治高生」というスローガンの下、習慣として相手にとって気持ちの良い挨拶ができるよう取り組んでおられるとのことだが、先程も私たちの顔を見て挨拶してくれる生徒が多く感心させられた。

<特別活動>

- ・部活動の成績にも表れているが、文武両立を目指して生徒たちもよく頑張っていると思う。

<自然科学コース課題研究>

- ・自然科学コース独自のこの取組は、生徒の自信にもつながり幸せなことだと思う。他校にはないこのような取組を大切にして継続してほしい。
- ・そのまま社会に出て通用しそうな高度な内容で、以前より非常に質が高くなっていると感じた。
- ・パワーポイントでの発表は、上手に工夫されていて大変分かりやすかった。周りで見守る先生方の雰囲気も温かく、生徒が高度な内容に真剣に取り組む姿は本当に素晴らしかった。先生方も指導が大変だと思うが、今後ともよろしくお願ひしたい。
- ・大変意義のある取組なので、教育予算もこのようなところに重点を置くべきだと思う。

<その他>

- ・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果から、家庭との連携において他の項目と比べて評価が低いので、改善を望みたい。
- ・入学時に親から預かった手紙を修学旅行先で生徒に渡し、旅行先から生徒が親にはがきを送るといった人間教育を大切にしておられるとのこと、親子の断絶が目立つ時代にあって非常に素晴らしい取組であり、引き続き実施してほしい。